

## 徳島市産業振興ビジョン策定委員会（第1回）会議録（要約）

と き：平成25年8月20日（火）

13時30分～14時50分

ところ：徳島市役所 8階 庁議室

1	開会	- 13時30分 -
2	第二副市長挨拶	
3	出席者紹介	
4	委員長、副委員長の選任	
5	議事 産業振興ビジョンの策定について	
（1） 徳島市産業振興ビジョンについて		
委員長	それでは議事に入る。議題3の産業振興ビジョンの概要及び策定スケジュールについて、事務局からの説明を求める。	
事務局	（資料4「産業振興ビジョンについて」を説明）	
委員長	事務局より、徳島市産業振興ビジョンの策定趣旨、概要、今後の委員会のスケジュール等について説明があったが、これらについてご質問、ご意見はないか。	
A委員	上位計画にあたるのが総合計画ということだが、総合計画の計画期間は平成28年度までである。産業振興ビジョンは平成27年からスタートということで、2年ぐらいは重なるのだろうが、整合性のある中身にしていく必要がある。	
事務局	おっしゃるように、策定の計画期間はずれているが、次期総合計画の方針をある程度方向づけるという形で考えている。総合計画は上位計画ではあるが、計画期間が違うので、それを踏まえたものとはならない。ビジョンについては、さらにその先を見渡して計画をご検討いただくことになる。	
委員長	今、他にご意見がなければ、次の議題に移り、ご意見があればそこで総合的にお受けしたいと思う。	
（2） 「第4次総合計画と現行施策」及び「現状分析」について		
委員長	産業振興ビジョンの策定に関連して、第4次総合計画と現行施策及び現状分析について、事務局から資料5及び資料6に基づき説明をお願いする。	
事務局	（資料5-1「第4次徳島市総合計画と現行施策について」及び資料5-2「現行施策について（一覧）」を説明） 続いて、現状分析について。資料6-2「現況調査資料」の概要版を資料6-1として用意している。本日は時間の都合上、概要版に沿って、三菱UFJリサーチ&コンサルティングより説明していただく。	
事務局	（資料6-1「現況調査資料（概要）」を説明）	
委員長	総合計画と現行施策、徳島市の現状分析等について事務局から説明があった。これらについてご質問、ご意見をいただきたい。	
B委員	第4次徳島市総合計画という上位計画があり、その上で産業振興ビジョンを	

	<p>作るという話だが、総合計画における現行施策の評価について、本日でなくてもよいが、お伺いしたい。</p> <p>なぜかという、全国からみた現況調査は大事だが、ビジョンの上位計画である総合計画を実際にやってみてどうなのか。成果があって、そこをもっと深掘りするのか、ここを進められないのでしたらよいのか、という関わり方も必要かと思う。</p>
委員長	ただ今の件について、よろしく願います。
事務局	今日の段階では難しいがビジョンでは最終的には施策的なことにまで踏み込んでいくため、その前提で今の施策の評価についても資料としてご提示させていただきたい。
委員長	<p>他にご意見があればお願いしたい。</p> <p>先程説明していただいた最後のページだが、「高い競争力のある製造業の有無が市内産業に大きな影響を及ぼす」という部分が非常に印象に残った。</p> <p>もう一つは、本社機能である。つまり、規模に捉われず、市内に本社をできるだけ多く置いてもらうということである。以前、甲府商工会議所を訪れたが、ファナックとキトーの2社が来ただけで、まちが大きく変わったという。規模や成長力だけでなく、本社機能の存在が増えることが非常に大きいという意識を持っているが、いかがか。</p>
事務局	委員長がおっしゃるとおりで、本社機能があれば、そこで様々な意思決定がなされる。また、市内のサービス業、特に事業所向けサービス業は、本社機能があるかどうかが必要の発生に非常に影響する。徳島市に経営の意思決定ができる機関があることが、自立した経済をつくっていく上では非常に重要なポイントである。
委員長	他にご意見があればお願いしたい。
C委員	現況調査についてご説明いただいたが、ビジョンを策定する場合は、将来どんな風になるのかという統計数値、例えば人口や高齢化の問題など、これがビジョンの目標年次とする期間でこれぐらいになっているだろうと推測するための基礎データを出される予定はあるのか。
事務局	別冊として資料6 - 2をお配りしているが、P.17に国立社会保障・人口問題研究所の徳島市の推計人口が掲載されている。これを基礎としてご検討いただければと考えている。
C委員	<p>TPP や、農業従事者の減少により耕作放棄地が増えていることなど、非常に大きな問題がある。そのようなことをシビアに、どんな形になるかという予測を検討される必要があるのではないか。</p> <p>TPP はどのような形になるかはまだ決まっていないが、耕作放棄地が増えているのは現実の話である。実態はどうなっているのか、調査しなければならないのではないか。それをベースにしてどのような形で展開していくかを検討しなければならない。</p>
事務局	お手元の資料6 - 2のP.55に、平成22年度の農業センサスの数字がある。

	また後程説明があるが、現在、農業者に対する実態調査を行っており、そのご意見等を加味して、ある程度推定するという形になってこようかと考えている。
委員長	他にご意見があればお願いしたい。
D委員	各農家にアンケートを送っていると思うが、それはどのような人を対象にしているのか。農業関係だけか。
事務局	農業は徳島市の認定農業者全戸に送っている。その他、漁業等については、関係団体にヒアリング形式で訪問させていただいて調査を進める。
D委員	現行の施策として、農林水産省の中山間地域等直接支払事業費という形で、耕作放棄地等に対する支援等も行っているが、対象の面積などはわかるか。というのも、C委員もおっしゃったが、高齢化に伴い耕作放棄地が多くなっている。それに対するアシストをどのように行うか、農協側としても苦慮しているところである。先程の統計にも、面積は減っていないが、大規模経営が増えてきたという内容が出ていた。現状は耕作放棄地もかなりあるので、その対策も地域産業における非常に大きな課題の一つだと思っている。その辺りの現行施策の結果等もご提示いただきたい。
事務局	耕作放棄地については、センサスでは平成 22 年に 315 ha となっている。これとは別に、農林水産課と農業委員会とで、平成 23 年 11 月から 12 月までに、担当者が地区ごとに目視で確認した。実際の目視分なので少ないが、30.9 ha を把握した。主観的数字と客観的数字で数字が違うが、増えてきてはいる。それに対して、平成 21 年度から耕作放棄地解消のための支援事業を市単独で実施している。確認した分については減ってはきているが、実際の耕作者が答えている耕作放棄地面積は全体として増えてきている。今後はこちらの再生活用事業の方にも力を入れていきたい。
委員長	全体の進行の状況もあるので、先に徳島市の産業実態調査について説明してもらい、後で集中的に討議をしていきたい。
( 3 ) 「徳島市産業実態調査」について	
委員長	資料の説明をお願いする。
事務局	( 資料 7 「( 参考 ) 徳島市産業実態調査の実施内容について」を説明 )
委員長	それでは、アンケートも含めて、先程の議論を継続させていただきたい。時系列の資料をみればよくわかるが、本市の傾向と国・県の傾向はよく似ている。もう一つ、他の県庁所在市との比較、または全国に対する本市の業種別シェアで見ると、問題点と強みが浮かび上がってくるのではないかと。例えば徳島県であれば、農業のシェアが県全体の GDP では 0.5% が徳島の経済であるが、農業は 1.2 ~ 1.3% あり、比較優位にある。さらに漁業では、栽培漁業や養殖漁業を今後の本県の強みにしていく要素も出てくるのではないかと。製造業は県の人口 0.5% に対して、全くスライドして 0.5% である。小売業は人口 0.6% に対して 0.6% と、これも人口と比例している。問題は卸売業が

	<p>0.2%で、本県の卸は不振を極めているのが現状である。強いのは農業で、弱いのは卸である。</p> <p>サービス業はばらつきがあり、医療系や保健系は非常に強いが、飲食等については問題を抱えている。</p> <p>時系列でみると他の県と全く同じだが、別の切り口でみると本県の強みがわかるのではなかろうか。その辺りも参考にいただければと思う。本市の強みは何かということで、強いところを伸ばしていったって競争力を上げる。</p> <p>そこで一つ気になるのは、地場産業が惨憺たる状況であることである。木工をはじめ、縫製、食品などいろいろあるが、ピークの3～4割の水準になっている。地場産業全体をどうしていくかが身近な問題である。</p> <p>もう一つは流通業である。卸・小売、今は新町西地区再開発も問題になっているが、どうしていかなければならないか。隣の高松市では丸亀町が活性化できているが、やはり本県は問題を抱えていると感じる。</p> <p>業種別でいうと、製造業は非常に強いといっても、加工組立型産業はほとんどなく、素材型と生活関連型に特化しており、女性社長が多いことにもつながっている。</p> <p>業種別にみると、強いようでも問題を抱えている、また弱いようでも何か期待させるものを持っている感じがする。</p> <p>皆様、何かご意見があればお願いしたい。</p>
E 委員	<p>先程のご説明では、徳島市の企業の99%は中小企業である。徳島市の産業振興は中小企業の振興にかかっているということを強く思った。</p> <p>もう1点。現状を打開するには、企業単体、業界単体ではなく、企業間・業種間の今までにない連携が必要である。ノーベル賞などがそうだが、化学の分野で、今までにない素材を結合させると、すごい化学変化が起こることがある。それがものすごい反応を起こし、いろいろな産業に結びつく。徳島市内の企業や業界が、いろいろなものを組み合わせると、何か新しいものができないかという視点も重要だと思う。そのような事例はあるか。</p>
事務局	<p>今回はそのようなことも視野に入れている。農林水産省や経済産業省も言っているが、1次産業、2次産業、3次産業とばらばらに縦割りで行っていた業種が、それがくっついて1+2+3、あるいは1×2×3で6次産業化や農商工連携に取り組んでいる。そのような面でのイノベーション、新しい組合せは今回も考えていきたい。</p> <p>常識に捉われないという意味で、6次産業化を新たに取り入れることもイノベーションの原動力になるだろう。</p>
F 委員	<p>徳島のまちは、住みやすい、住んだらいい所だとよく言われる。ただ、旅行先としての魅力という点でそれが合致するかどうかということは少し違うような気がする。しかしながら、住みよいまちというのは大きな自慢の基であるので、もっと自慢させていただきたい。</p> <p>少し飛躍するが、いろんなアンケート調査をされる時に、徳島市民の満足度</p>

	<p>を入れていただきたい。住みよいし、まちはきれいだし、食べ物もおいしいし、悪いところがないのに、どうして県外からお金を落としにお客様が来てくれないのか。</p> <p>安直な言い方になるが、大河ドラマのようなものに恵まれない。つまり、歴史的人物や歴史的建造物がない。唯一最大の観光資源は人の手による阿波おどりであり、通年性に欠けるなど、いろいろと難しい点がある。</p> <p>環境変化や徳島市の本州との交通体系にもよるが、ビジネス圏に入ってきたかなという感じで、往来は多いが宿泊地にはなりづらい。これを宿泊地にするにはコンベンションが重要である。古い魅力づけに弱いのであれば、新しい方の魅力づけを考えるべきではないか。</p>
委員長	<p>環境変化の中で、平成 26 年度の高速度道路料金の全国共通化が大きな条件・与件になってくる。それをうまくフォローの風として捉えるか、アゲンストの風になって流出を増やすか、今は瀬戸際のところにあると思う。そういったことも環境の中でどうあるかが非常に大きな問題になってきている。観光業者をはじめ、本市全体で考えるべき課題である。</p> <p>観光入込客数が多いことで安心しきってはいけい。文化の森の利用者は 70 万人だが、それが全て県外の観光客であるというイメージで捉えているのは由々しき問題である。いかに県外からの観光客があり、観光収入があるかという視点でみななければいけい。入込客で安心しては駄目である。表面的な数字に捉われるのではなく、戦略的に生かせる数字で考えなければならい。一つよろしくお願ひしたい。</p> <p>G 委員、いかがか。</p>
G 委員	<p>第 4 次徳島市総合計画との整合性ということで、総合計画を進めてきた中でどのような課題があるのか。B 委員からも話があったが、その評価、いわば課題の洗い出しといったものを、もう少し深掘りする必要があるのではないか。総合計画の中にまちづくりや農林施策の振興等、魅力ある商業空間の形成とあるが、現にどのように取り組んでいるのか。計画の終期も迫っている。観光コンベンションの進行には県全体としても取り組んでいるが、徳島市の観光資源、観光の魅力としてどういったものを強みとして売り出すのか。徳島のシンボルとしては徳島城博物館の公園(城山公園)、新町川を中心として、徳島市も水都ということで、水というキーワードがある。眉山という、映画にも取り上げられたシンボルもある。こういったものをいかに活用していくかを考えなければならい。</p> <p>入込客数の話もあったが、本四高速の料金統一化がチャンスとなるかピンチとなるか。もちろん、チャンスとして生かしていかなければならい。観光資源をもっと充実させ、誘客を進めていきたい。</p> <p>また、宿泊のキャパシティについてよく言われる。宿泊のキャパシティはある程度あるが、エグゼクティブ、セレブ向けの宿泊は非常に少ない。私も商工会議所の全国大会等に行くが、企業の役員・経営者クラスの方々からは、</p>

	<p>全国チェーンのビジネスホテルではなく、より高いグレードのものが欲しいという要望もある。徳島にはそういった所が少ないのではないかな。</p> <p>冒頭で、いくつかの業種が束になってというお話もあった。縦割りではなく、6次産業化のように、1次から3次まで、ここにお集まりの方々が一緒に力を携えてやっていく。その接着剤のような役割を、民間が主導でやるのか、行政がかかわっていくのか。我々経済支援団体もやっていかなければならない。</p> <p>産業振興ビジョンでは、徳島市は何で食べていくのかをもっと真剣に考えていかなければならない。全国どこに持っていっても通用するような金太郎飴では駄目であると、改めて強く思った。</p> <p>このビジョン作りには本当に真剣に取り組んでいきたいと思う。</p>
<p>委員長</p>	<p>本日も発言いただけていない委員もいらっしゃるが、次回の委員会では必ず発言していただく時間を設けたい。次の会議があるということなので、今日はこれで終了させていただきたい。</p> <p>第1回委員会では産業振興ビジョンの概要と、徳島市の置かれている状況について、ある程度の共通認識ができたものと思っている。今後、産業振興ビジョンに盛り込む内容について協議していくこととなるので、よろしく願いしたい。</p>
<p>6 閉会 - 14時50分 -</p>	